

あなたの手を、世界の誰かに。

2017年10月2日

## セカンドハンド通信 NO.90

公益社団法人 セカンドハンド 本部事務局 TEL&FAX 087-861-9928  
〒760-0055 香川県高松市観光通1-1-18  
E-mail:jimukyoku2hand@yahoo.co.jp <http://2nd-hand.main.jp/>  
ブログ:<https://koekihojinsecondhand.wordpress.com/>  
Facebookもしています! [セカンドハンド Facebook](#) [検索](#)



### 医療支援

## 救急救命室完成! スヴァイティアップ病院

この春に着工した救急救命室がついに完成!との報告を受け、スヴァイティアップ病院を訪問してきました。

新しい救急救命室には、救命の際に使う酸素ボンベや医療器具、薬品もきれいに整頓され設置されていました。今後はエアコンの設置が計画されており、患者にとってより適切な処置ができる環境づくりを進めているようです。昨年度末まで3年間実施したJICA草の根技術協力事業で救急医療のリーダーとして2度の来日研修を受けたチョムラウン院長。彼の知識や技術が発揮され、このスヴァイティアップ病院で一人でも多くの患者の命が救われることを期待します。

この救命救急室は、搬送されてくる患者がない普段は、入院患者のための病室としても使用しているそうです。室内には8つのベッドが配置され、これまで病室が足りず、廊下で寝泊りしていた患者さんの一部は、少しでも快適な環境下で療養することができるようになりました。

生まれたばかりの赤ちゃんを廊下で過ごしていたお母さんから、「完成したばかりの清潔な部屋で子どもと一緒に安心して入院することができて



新しい部屋で入院しているお母さんと赤ちゃん

います。これで院内感染の心配をしなくてもよくなりました。本当にありがとうございました。ここでお礼を申し上げても足りないくらいです。」と、支援してくださった皆さま宛にお礼のメッセージをお預かりしてきました。

現在も、入院を必要とする患者数に対して入院病棟が足りず、壁のない廊下で寝泊りしている患者も多くいます。今回新しく1部屋増えたといってもまだまだ多くの患者が廊下での療養を余儀なくされています。私たちが病院を訪問した時もちょうど雨が降っており、廊下のベッドで療養する患者さんには吹き込む雨が降りかかっている状態でした。「部屋に入れない患者は、どんなに状態が悪くても、雨季には雨に、乾季には砂埃に悩まされながら過ごしてもらえない」と先生が話していました。

セカンドハンドでは、今後も現地との調整の上必要な支援を検討していきたいと思っています。スヴァイティアップ病院の救急救命室建設にご支援・ご協力を頂いた皆様、本当にありがとうございました。



完成した救急救命室



「セカンドハンド」は、ボランティアが主体となって運営する国際協力団体です。主な支援先はカンボジアで、学校建設や奨学金支援などのほか、自立・医療・孤児院支援を行っています。資金源は皆様のご寄付とチャリティーショップ(提供された品物を無報酬のボランティアスタッフが販売)。一人ひとりの力は小さくても集まれば大きな力となる」をモットーに活動しています。世界の誰かのために、あなたの力を貸してください。

商品提供やご寄付など、支援してくださった皆様へのお礼とご報告は、このニュースレターにかえさせていただきます。

## 孤児院支援

# 「ホームランドスクールにおける保健衛生指導者育成プロジェクト」始動！

今夏より2ヵ年計画でスタートする「保健衛生指導者育成プロジェクト」。この事業の事前調査のために、8月中旬に職員がホームランドスクールを訪問しました。

この事業のキーパーソンとなるスクールスタッフ3名とともに、スクールに通う子ども達の歯磨き・手洗いにに関する意識調査を行いました。また、スタッフと一緒に2軒の家庭訪問も行い、子ども達の暮らしをより正確に把握することができました。

訪問したどちらの家でも、歯ブラシは戸棚の奥底に保管され、日々使用している様子はありませんでした。また、歯ブラシ1本を家族全員で共用しているとのことでした。

今回の調査では、普段歯を磨かないと回答した子どもが多く、口の中を見せてもらおうと、大きな虫歯がたくさんありました。「痛むけれど、貧しくて病院に連れて行ってもらえないため、ずっと我慢している」と言っていました。

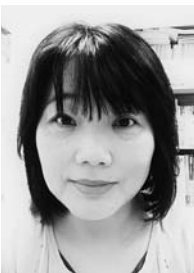


家庭訪問の様子



一人ひとりの子ども達の家庭の様子を調査するスクールスタッフ

次回の渡航では、香川県立保健医療大学の辻よしみ先生と同大学で保健衛生について学ぶ3年生の2名（岡本ゆいさん、伏見綾人くん）を派遣し、3名のスクールスタッフと共に、実態に合った指導方法を模索しながら教材作成を行います。この事業の実施にあたり、長年セカンドハンドのご支援を頂いている鳥かい歯科医院様より、歯ブラシ50本、指導用の歯の模型、歯垢チェッカーをご提供頂きました。これらを使用し、子ども達が楽しんで学べる教材の作成を目指します。まずは、スクールスタッフ自身が、現状把握と課題に気付くことができるようサポートしていきたいと思っています。



専門家 辻よしみ先生  
(香川県立保健医療大学看護学科)

今年、セカンドハンドの新事業「保健衛生指導者育成プロジェクト」に専門家として参加させていただくという貴重な機会をいただきました。私は現在、大学で看護師・保健師の教育を行っています。日本とは違ったカンボジアの環境の中で、現地でも可能な方法での保健衛生について理解してもらえる様に、今までの知識や技術を生かして、指導を実践してきたいと思います。また、学生やセカンドハンドのスタッフ、カンボジアの指導者や子ども達にとって有意義な時間となる様に共に楽しく学び、カンボジアの保健衛生レベルが少しでも良くなる様に支援していきたいと思っています。

この事業に寄付金を通じてご支援いただけます方は、ウェブサイトからPayPalにてご寄付いただくか、同封の払込取扱票をご利用いただき郵便局窓口にて振替口座までご送金ください。

※通信欄に「孤児院支援」とご記入ください。

口座番号：01610-0-100776 加入者名：公益社団法人セカンドハンド

# 新しい里子・里親のご紹介！

セカンドハンドでは現在21名のフォスターペアレント（里親）の皆様へ里子を含む孤児院支援をいただいています。今回は新たに里子・里親となったソチアータちゃんと石見さんをご紹介します！

## フォスターチャイルド（里子）



Vann Socheata  
ヴァン ソチアータちゃん  
(8歳)

学年：小学校2年生  
好きなこと：絵を描くこと  
家族構成：母、姉、兄3名  
※両親は離婚

母親が建設業社で働き、1人で6人家族の家計を支えている。建設作業現場が変わる度に住む場所が変わるため、母親一人が働きに出て、兄弟5人だけで日々の食事に困るほどの貧しい生活を送ったり、兄弟の中で末っ子のソチアータちゃん1人が母親の現場について行き、学校に行く機会がない生活を過ごすこともあった。勉強がしたいという本人の希望をかなえるため、ホームランド孤児院が支援をしている。

## フォスターペアレント（里親）

石見 和弘さん

ボランティアスタッフとして倉庫の引越し作業やイベント時の搬入・搬出作業などで活躍。2017年4月からフォスターペアレントとして支援を開始し、5月にはセカンドハンド理事に就任。

「フォスターペアレントになったのは、歳を重ね、自分に出来ることは何だろうと考えていた時にセカンドハンドのカンボジア視察渡航に同行したのがきっかけです。子ども達の様子を見てまだまだ支援は必要だと感じ、支援をしようと思いました。子どもの成長する姿を見られるというのがこれからの一番の楽しみです。」

「子ども達の成長が見られるのが嬉しい」という言葉は、現在フォスターペアレントとして支援をしている皆さんからよく聞く言葉です。子ども達にとっても遠い日本から見守ってくれるお父さん・お母さんが居ると思うだけで心強くなります。



## 新店舗「セカンドハンド松縄店」 秋頃オープン決定！

「車で来られるお客様やボランティアスタッフの皆様のために郊外型の店舗のオープンを！」と店舗物件を探し始めて約1年。ようやく見つかりました！高松市松縄町に新しいチャリティーショップをオープンします！

高松市の中心部に位置する高松店・片原町店と違って松縄町新店舗のコンセプトは、“幅広い世代に愛されるチャリティーショップ”です！これまで、子育て世代などの車移動が多い方々から、「駐車場がないからお店に行きづらい」といった声を多数いただいていた。そういった方々を中心に老若男女が誰でも気軽に入りやすいお店づくり、また、ボランティアや品物提供で協力してみたいと思えるような、国際協力への第一歩を後押しするお店づくりを目指しています。

現在、着々と改装、商品準備、チラシ作成などのオープンに向けての準備を進めており、まもなくオープン日が決定する予定です！オープンに合わせて記念イベントも予定しておりますので詳細が決まり次第、店頭、ウェブサイト、ブログ、Facebook等でお知らせいたします。ぜひご確認ください！



セカンドハンド松縄店のオープンに伴い、一緒にお店を盛り上げてくださるボランティアスタッフを大募集中です！新しいお店でボランティアをしてみませんか？興味がある方はお気軽にセカンドハンド本都までお問い合わせください！



# 3人の心に刻まれた「カンボジア視察渡航」

2017年8月11日(金)～8月18日(金) 7泊8日

今回はセカンドハンド・ユースとして活動している3名の大学生が視察渡航に同行。ホームランド孤児院やスヴァイティアップ病院を訪問し、セカンドハンドの支援の成果を確認してきました。また、ユースも支援を続けているセンソック地域で暮らす奨学生たちとの交流・ホームステイも！それぞれの学生達の感想を一部抜粋してご紹介します。

※全文はセカンドハンドのウェブサイトに掲載しています！



## 原 雄一朗くん(香川大学3年)

2度目のカンボジア渡航であった私にとって、前回の渡航で見たカンボジアと2年越しに訪れたカンボジアがどのように違って見えるのか、またどのような新しい発見や気づきを得られるのか非常に楽しみにしていました。

観光でにぎわっている地域がある一方で、スラム街と呼ばれる地域が数多く存在するカンボジア。プノンペンのセンソック地区に住む高校二年生のラビ君の自宅にホームステイさせていただきました。ホームステイ

先のラビ君と出会ったのは実は2年前。前回の渡航で一緒に交流したうちの一人です。ラビ君の将来の夢は料理人になること。普段からお母さんの料理を手伝っているうちに、料理を作ることに興味を持つようになったそうです。夕飯はラビ君とお母さんが作ってくれたソムロームチューサイツという豚肉と空心菜が入ったカンボジア伝統のスープ。おいしくて、ご飯も何杯もお代わりさせていただきました。お互い片言の英語で、学校のこと、将来のことなどたくさん話しました。ラビ君は分からないことがあれば、一冊の英語の本から言いたい項目を探し出し、指をさして伝えてくれました。ラビ君曰く「この一冊の英語の本を小さい頃から大切に使っているんだ」とのこと。私は英語の本は何冊か持っていますが、小学生の頃から使い続けている本など持っていません。その言葉を聞いたとき、物があることが当たり前だと思い込んでいる自分がいることに気づかされました。翌日、家から出発するとき、お母さんが「私たちにはお金がなくて、あまり何もしてあげられなかったけど、友情関係は忘れない。また会いましょう」と言ってくれた時、涙腺が緩まずにはいられませんでした。住んでいる国や環境は異なっていようと、人を思いやる気持ちはみんなもっている。ラビ君家での体験は私にとって忘れられない時間となりました。

カンボジアから帰ってきて日本の街並みを見たとき、日本に帰ってきたという安堵感とどこか物寂しさを感じました。日本は、道はアスファルトで舗装され、立派な建物もたくさん建っている。人が生活するためのものは完全と言っていいほど整っている。しかし、カンボジアの街でよく見かけた人同士が至る所で集っている光景や人々が創り出す賑やかさというのがあまり見られなくなった。どちらが正解かという答えはありませんが、異文化を体験できたことで、日本での生活を別の視点から見つめることができるようになったことも確かです。

今後は渡航を通じて得た経験を、自分の言葉で伝えていきたいと思います。これから就職活動など自身の将来について考える機会が増える私にとって、今回のカンボジア渡航で得た経験はその意思決定に反映されるものになると思います。



アンコールワットでモデル風写真♪



## 首藤 沙希さん(香川大学2年)

マリノールへは、セカンドハンド・ユースとして訪問した。事前にユースのメンバーで当日に何をしたいか話し合い、今回は日本での募金活動のときに使用するためのプロフィール作成や、日本文化に触れてもらうため習字をした。私たちユースのメンバーも自分たちが支援している学生は、どんなことに興味を持っていて夢は何かを知ることによって、より強く具体的に支援活動を行うことができる。

その日にマリノールの学生の家にホームステイをした。このホームステイは今回のカンボジア渡航の中でもなかなか刺激的であった。姉妹の家にホームステイしたが、二人とも将来の夢をはっきりと持っており、そのために何の資格が必要か、資格を取るためには今、何を勉強すればいいのかわかっていた。なぜ自分や日本の学生は明確な将来の目標がないのか、大学にただただ通っているだけなのか。カンボジアの学生は英語を話せることによって将来の選択肢も広がっていくが、その一方、日本の学生は将来の選択肢が多すぎて逆に勉強をしないのではないかなと思う。私もカンボジアの学生を見習うべき点はたくさんあるということに気づけたホームステイだった。

今回は、観光地として発展しつつあるカンボジアを見られ、また、ホームランドやマリノール、病院など、個人のカンボジア旅行では行くことのできない場所にも行くことができた。カンボジアに行くことによって自分の価値観や考え方が変化するとはあまり思っていなかったが、実際に行ってみると、日本のほうがいいと思える点や、逆にカンボジアを見習いたいと思う点など多くの気づきを見出すことができた。大学生は自由でやりたいことが何でもできると思っていたが、その分何をしたらいいのかわからないと感じたり、不安に感じたりすることも多くある。しかし、カンボジアの学生や現地の人を見て自分の生活に誇りを持っていて、私たちからするとありえないことも楽しんでいて、考え方一つで生活も変わってくるということを身をもって体験できた。今回の視察渡航に同行するチャンスをくれたセカンドハンドの方に感謝し、よりユースとして支援金を集める活動を積極的に行い、また、セカンドハンドでのボランティア活動をしていきたい。



## 三澤 友喜乃さん(香川県立保健医療大学2年)

私は、セカンドハンドの片方の手は自分や自分の大切な人のために、もう片方の手(余力)で困っている人の笑顔のためにというこの団体の方針に良いなと感じ活動に参加するようになりました。この団体の学生部であるユースの募金活動にもはじめは意欲的に参加していましたが、段々とこの活動がどんな国のどんな人にどんな形で役立っているのか自分の中で疑問が生じ参加する機会が減るようになりました。そこで今後自分がどうしたいのか考え直すために今回参加させてもらいました。

実際現地に行くと治安、公衆衛生、交通、職場環境、生活環境などどれをとっても衝撃を受けるものばかりでしたが、何より今回の渡航で私は、交流したカンボジアの人々のことを好きになりました。どの方々も笑顔でとても暖かく受け入れてくれ、親切に私たちに協力してくれました。また、言葉が十分なわけではありませんでしたが、言いたいことをしっかりと聞いてくれ可能な限り応えてくれる姿勢にとっても嬉しさを感じました。渡航前は不安な気持ちでいっぱいでしたが、この暖かい方々のおかげで学びの多い充実したカンボジア滞在となりました。そして、こんなに暖かく素敵な方たちの支援をするというよりは、自分のセカンドハンド(余力)で行ったことが少しでも役に立つなら協力させてもらいたいと思うようになりました。

また日本とカンボジアでは、やはり異なることが多かったですが、同じものもありました。それは、家族や友人、人が人を思う優しさや思いやりの気持ちです。病院見学での医者が患者を思う気持ちや家族が家族を心配する様子、先生と生徒の様子、お宅訪問での団らん風景を通して強く感じました。確かに私たちから見て施設や物品、金銭的な面では貧しい部分もあるかもしれませんが、心豊かに暮らしているカンボジアの方々がここにはいました。

最後になりましたが、このような貴重な体験をさせてくださったセカンドハンドさんをはじめ、支援者の皆様、一緒に渡航に同行した仲間、カンボジアの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



# 夏休みの学生ボランティアをご紹介します



## 夏休み Start!



### 7/22 セカンドハンド通信89号発送作業

香東中学校英語部より10名、高松東高校より3名、高松西高校より1名、大手前高校より1名の計15名が作業に参加してくれました！中高生とボランティアの皆さんにお手伝いいただき、あっという間に発送作業は終わり、予定していた別の作業を進めてもらうこともできました。



みんな、黙々と作業中！

### 7/23・24

#### きもの・ゆかた市

高松東高校より2名の生徒さんがボランティアに来てくれました！大きな声で挨拶したり、お会計をしたり、慣れない作業も一生懸命やってくれました。

### 8/20・21

#### くつ・かばん市 街頭募金活動

香東中学校ソフトボール部より15名がボランティアに来てくれました！また、同日にセカンドハンド・ユースが行った街頭募金活動にも参加してくれました！



くつをキレイに  
並べ直してくれました！

### 7/23～25 三木高校インターン

三木高校より5名の生徒さんがインターンに来てくれました！けやき市場でのきもの・ゆかた市、セカンドハンド・ユースとの街頭募金活動、お店や倉庫での作業やブログの更新など、様々なお仕事を体験してもらいました。

「3日間のインターンを通して、僕たちは人間の善意というものを知ることができました。見えない誰かのために、ご自分で郵送料を出してまで物を寄付してくださる方が全国各地にいて、わざわざ足を止めて募金をしてくださった方が大勢いらっしゃってとても驚き、嬉しく思いました。人の善意で成り立っている、人の善意の象徴とも呼べるような『セカンドハンド』という団体は、とても素敵なお店なのだと思います。僕たちも、誰かの役に立てたことに誇りをもって、今後の進路と真剣に向き合います。」とお話してくれました。



片原町店でのお店番の様子

### 8/13・8/16

#### 片原町店でお店番

8/13には、三木高校より男子生徒2名がボランティアに来てくれて、イベントの準備も手伝ってくれました。また、8/16には、小学校3年生の女の子がお母さんと一緒にお店番を体験しました。衣類や食器の入れ替えをしたり、大きな声で挨拶したり、レジを打ってみたりというんな作業をやってくれました！

### 8/6・8/14 高松店2階で倉庫作業

高松店2階の倉庫では、提供していただいた品物の仕分けや値札付けの作業などを行っています。8/6には高松大学の学生2名が、8/14には小学校2年生と5年生の姉妹がお母さんと一緒に作業してくれました！



親子で衣類の値札付け作業！

## 夏休み Finish



小学生から大学生までのボランティアが大活躍だった今年の夏。特に例年以上にたくさんの小学生ボランティアがお手伝いに来てくれました☆セカンドハンドでは夏休みだけでなく、いつでもボランティアを募集しています！普段なかなか体験できないお店番ボランティアや街頭募金のボランティアなど、やってみたい活動があれば、ぜひご相談ください！





# 各地でひろがるセカンドハンドの輪



## セカンドハンド・ユース

私たちセカンドハンド・ユースは、みなさまからお預かりしたお金で、今年度は7名の学生を支援しています。7月8月は毎月行っている街頭募金活動に加えて、7月には三木高校生、8月には香東中学校のソフトボール部のみなさんと募金活動を行いました。4月から8月にかけて85,343円が集まりました。ありがとうございました。7月にはカンボジアから香川大学に留学していた3名の学生とお昼ご飯を食べながら交流しました。



県内の高校生と募金活動

今後は毎月の募金活動、10月9日にアイバル香川で開催される国際フェスタへの参加、10月21日に香川県立保健医療大学・大学祭への出店を予定しています。それぞれボランティアを募集しておりますので、興味がある方はセカンドハンド・ユースのメールアドレス宛にご連絡ください。



カンボジアからの留学生3名とお昼ご飯を食べました!

セカンドハンド・ユース(代表: 原)

secondhand\_youth@yahoo.co.jp

## YOU倶楽部

### 「世界の子どもに愛の手をチャリティーパーティー」

7/2、名古屋市で行われたYOU倶楽部「世界の子どもに愛の手をチャリティーパーティー」に理事1名・職員1名が参加しました。会場では、カンボジアのクラフト品販売もさせていただき、46,700円を売り上げました。また、当日のチャリティーオークション等での収益金の一部、10万円をセカンドハンドに寄付していただきました。

## 新しいパート職員紹介!



8月末から2名のパート職員の方がセカンドハンドで働いています!



青木 まゆみさん

以前から「ボランティア」には関心があったものの、なかなか行動できず狭い地域の中での活動に限られていました。この度、産休・育休をとる事務局職員の代わりにパートタイムで働くことになりました。

このご縁を大切に、セカンドハンドの「一つ目の手は自分と家族のため、もう一つの手(余力)は困っている誰かのために…」を心に刻み、微力ですが頑張りたいと思います。



野沢 恭子さん

セカンドハンドの事を全く知らなかった私。カンボジアに毎年のように学校を建てていることを知りました。かつて学習塾で10年程勤務したことがあり、教育の大切さと質が人の人生でいかに大切なことかと思えます。セカンドハンドの認知度が上がっていくように、皆様の小さな力の集まりで学校が出来ることをお伝えしていきたいです。教育から生きる術にまで繋がり皆が生きることが楽しいと思える世の中に、その手段の一つがココに。

## SPECIAL THANKS



6/1~8/31までの3ヶ月間にご寄付などご支援くださった方々です。その他にも様々な形でご協力くださった皆さまありがとうございました。

【寄付者】愛知学泉大学学生会&岡崎城西高校英語部、相原裕美、青野千恵子、家次加奈、伊賀憲子、入江治子、岡野道子、片山績、川崎多恵子、川田貴美子、河田久仁枝、河原崎晴美、木村明仁子、酒井恵津子、白川ふみ、高島清磨、高瀬稔彦、田中正利、塚田泰代、鳥かい歯科医院、中澤力、中村凱次、沼田章、のぞみ総合法律事務所、平野キャサリン、藤原和子、ふたばのこころ、升崎里美、松原志乃、美濃吉広、宮本明宜、山下英城、YOU倶楽部、横田千春、吉田正強、吉本房子、米倉逸克、原雄一朗、首藤沙希、三澤友喜乃

【その他】天勝丸亀店、永井敬子、和力フェグウ 〈敬称略〉



## Second hand Official Supporter: SOS会員募集

教育支援・医療支援などの特定目的ではなく、セカンドハンドの活動を全般的に支えていただくSOS会員(賛助会員)制度があります。お申し込みは同封の申込用紙のご利用もしくは定額自動引き落としもご利用いただけます。お名前、ご住所を事務局までお知らせいただければ、所定の申込用紙を郵送いたします。(セカンドハンドのウェブサイトからもダウンロードできます)

	月々	1年一括
個人	一口 1,000円	一口 12,000円
法人	一口 2,000円	一口 24,000円
学生		3,000円

- ◆皆様への手数料等のご負担はありません。
- ◆会費は税法上の寄付金控除の対象となります。
- ◆特典：報告書などの無料送付  
カンボジア商品の割引購入  
主催コンサート時の優待席確保 ほか

## 商品提供の受付 送り先が変わりました！ (2017年7月より変更)

秋物衣類：9月下旬まで  
冬物衣類：9月中旬から1月下旬まで  
※季節を問わない物に関しては常時受付可  
【持込先】セカンドハンド高松店  
【送り先】〒760-0055 高松市観光通1-1-18  
セカンドハンド高松店

## 通信発送について お知らせとご協力をお願い

セカンドハンド通信は年4回発行しております。その内、年2回(4月・10月)を無料発送としております。年間1,000円以上のご寄付をいただいている方、商品提供者、SOS会員には、年4回無料でお送りさせていただきます。読みやすく、成果がみえ、学べる通信を目指して制作しております。制作・郵送費カンパとして年間1,000円以上のご寄付で応援してください！

## 余っていませんか？提供してください！

白コピー用紙・色コピー用紙(どちらもA4サイズ)、水のり・固形のり、ポータブルDVDプレーヤー

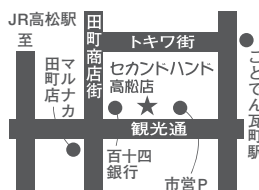
## セカンドハンド イベント&ボランティア情報

月々の会計報告書はセカンドハンド店頭に掲示しています。

日 程	内 容	場 所
10月9日(月・祝)	かがわ国際フェスタ2017	アイパル香川
10月19日(木)	10月のボランティア体験デー	セカンドハンド本部
11月23日(木・祝)	デザイナーズフリーマーケット	サンポート高松
12月10日(日)	みんなでみんなの和い輪い会	瓦町FLAG
12月16日(土)	セカンドハンド通信91号発送作業	セカンドハンド本部
12月16日(土)	忘年会	セカンドハンド本部

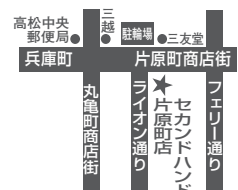
### 本部・高松店

■セカンドハンド本部(3F)  
■高松店(1F)  
〒760-0055  
高松市観光通1-1-18  
TEL:087-861-9928  
営業時間:  
月～金 10時～16時  
土 11時～15時  
日・祝日は定休日



### 片原町店

〒760-0040  
高松市片原町9-1  
TEL:087-822-3552  
営業時間:  
月～金 10時～18時  
土・日・祝 10時～17時



### セカンドハンド のネットワーク

■セカンドハンド北海道  
吉田  
(Email) 2hand.hokkaido@gmail.com  
http://www.facebook.com/secondhandhokkaido

■セカンドハンド関東  
阿部 (Email) 2hand.kanntou@gmail.com  
■セカンドハンド大阪  
徳 (E-mail) tokuyo@d1.dion.ne.jp

お店番、仕分け作業、事務、イベント運営、チャリティーショップやセカンドハンドの運営を支えてください。ボランティア募集！

☆このセカンドハンド通信は3ヵ月に一度発行しています。封筒作り、発送作業等をボランティアで行い、年4回会員(SOS会員や商品提供者等)に、その内2回を全国の支援者へ無料で発送しています。購読希望の方は、ハガキ、FAX、メールなどでお申し込みください。